

# 京都天然砥石採掘現場を訪ねる

日本の刀剣が世界で評価を受けるのは、鍛えた刀を研ぐ技術があるから。そして砥ぎを完璧にこなすことのできる天然砥石が発掘できたからこそ、日本刀の評価は揺るぎないものとなった。



大きな天上巢板の原石。

大きな合わせ砥の原石がびっしり

## 京都特産品の天然砥石

○写真：スタジオオライイト  
○協力：砥取家ととりや、三本カスタムナイフギルド

久しぶりに砥石山へ登る事になりました。約3年ぶりとなります。天然砥石山の衰退が取り沙汰されていましたが、その後京都の砥石山はどうなったのかと心配していましたが、やはり残念ながら過去取材した砥石山の中で廃山したところや、あるいは廃山寸前のところも多々あるそうです。キツイ仕事で後継ぎの成り手がいないことが主な要因だそうです。でも、そんな中でも前向きに天然砥石の採掘をしているのが今回の砥石山です。場所は京都の丸尾山です。

## 砥石山へいざ

今日は絶好の砥石山登り日和になりました。といっても実は早朝からザーザー降りの雨天です。砥石山取材で山に登る頃になると空模様が怪しく、毎回雨に降られているのですが、今回もやっぱり朝から本降りの悪天候でした。

山に案内してもらったのは砥取家（ととりや）土橋社長です。取材見学数人を軽トラに乗せ走らせまします。天気がよければ歩いて行くところですが、ぬかるみに足を取られて時間までに着かなかった事でしょう。



丸尾山から出た数々の砥石サンプル。

途中までは車で行けましたが、やはり最後は徒歩で登るしかありません。これが、やっぱりキツイ。雨で滑りやすくなっていますし、急な勾配ですからつらいです。最初の話しによればすぐそこというところだったので、文句を言っても始まらないのでもくもくと登ります。すると目の前に採掘口が出現。でもこれは以前の入口だそうで、その上を登って、小さな丸太橋を渡れば現在の入口に到着です。雨で滑りやすくなっているのので一つ間違えれば山を滑り落ちてしまうでしょう。

## 砥石山を発見するのはカンがたより

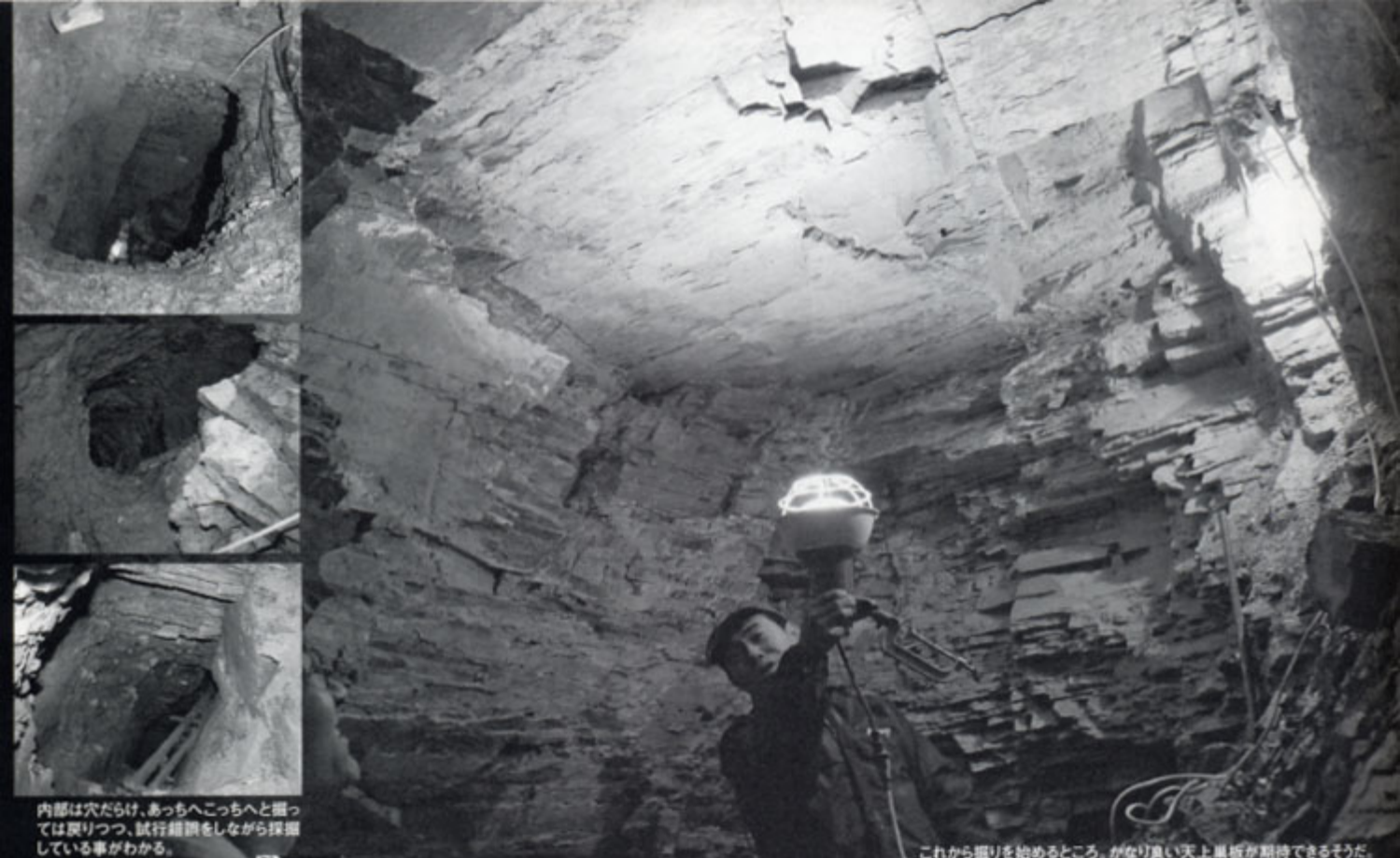
世界でも稀に見る砥石山連峰の中でも言うのでしょか。京都の高雄の辺りから大平、丸尾山、日照山とこのあたりだけがたまにま隆起しているのです。砥石山と言うのは同じ層で繋がっているのではなく、途中で細くなったたり切れたり枝葉に別れていきます。また、少し飛んで



大きな合わせ砥の原石もある。

出たり、どこから現れるか公式というものが無いので探すのが難しい。ある程度カンが必要なんだそうです。新たな採掘場を見つけるまで数年かかることもあるそうです。これはそうとうな我慢がいるように思えます。早速坑内に入ってみました。ライトを照らすと内部は複雑に掘られた部分とこれから掘られて形が変わって行くであろう砥石の原石がびっしりとつまっている感じです。丸尾山では天上巢板（内雲）戸前、合さ、大上（並砥）、敷巢板と全層の砥石が揃った本口成りの上物の採掘が期待できるそうです。

上物というのは、丸尾山はほかの山と違って層が分厚く大きな天然砥石が出るのが特徴だからだそう。ナイフ、鉈、の刃物に合うものが手に入ります。ここも何でもないただの赤土だった山の部分を掘り進めてカンをたよりに砥石の層を発見したからこそ、こうして目の目を見たわけ。砥石の層は同じ層でも中心部



内部は穴だらけ、あっちへこっちへと掘っては戻りつつ、試行錯誤をしながら探掘している事がわかる。

これから掘りを始めるところ。かなり良い天上風板が期待できるそうだ。

## 砥取家（ととりや）

分へ掘り進んだものは硬度が上がつているのだそうです。

鉋を使った「削ろう会」がありますが、それを参考に、昨年天然砥石の素晴らしさを少しでも知って頂きたいと「何でも研ごう会」を立ち上げましたという土橋社長は丸尾山で天然砥石を現在も採掘されておられます。

何故、天然砥石を使うのがいいのか、と聞けば次のような答えでした。切れ味がよくなり、長切れがし、砥ぎ直しの手間が省かれる、そして刃物の寿命も長くなる。なるほど良い事ずくめのように思われます。

いまから800年以前、鎌倉時代の頃、洛西峯の奥に合わせ砥石の発祥の地として砥取峯

というところがしるされていいます。その砥取峯の名をいただいて砥取家を開業されネット販売もされておられます。

天然砥石と言ってもやはり実際に体験してみないとその良さはわかりません。どこがどういのでしょうか。人造砥石で済む人もいますが、しかし、とても安くはない天然砥石も必要だという時があります。事前に知らせれば砥取家さんでは研ぎを体験できます。人造砥石では刃物を研ぐ事は出来ませんがそれだけの事で、研いで楽しむ事ができるのが天然砥石の良さの一つだそうです。

研ぎをしていると次第に気持ち落ち着いてきて、気分転換やストレス解消になると言われる方もおられるそうです。刃物砥ぎに集中できて気分転換になることは多くの人が体験してい

るといふことでした。中には寝る間も惜しんで砥ぎに専念している人もいます。

昔から全世界の台所にある包丁やナイフも研がないことには美味しい料理を作れなかったでしょう。いまは人造砥石があるので困る事はないけれども、いずれば採れなくなる事が分かってはいるものの、しかしながら天然砥石の砥ぎ味、切れ味に愛着をもつ、刃物を使う仕事に携わる方々の間では今も根強い人氣に支えられ愛用され、合わせ砥の魅力は決して減ることはないでしょう。少量とはいえ必需品として伝統産業の分野に深く根付いています。

あくまでも人造砥石を否定するものではありませんが、この良さを味わってみればこれもありかと考え改める事になるのではないのでしょうか。



下方より掘り進めて行ったので、やぐらを立て上へ向けて探掘している。



右端は掘り出したままの砥石の原石。それを小さく切っ行って、規格のサイズに合わせて行く。



数を沢山取るのか、大きな砥石で長もちするのか切り方で値打ちが変わる。



砥石の標示印を押して完成となる。